

相原高校のシンボルツリー・クスノキを守ろう！

クスノキ訴訟だより

N018

発行：2025年4月10日

橋本の緑と安心を守る会 連絡先： sammit0430@googlegroups.com



□ 2024年3月に提起された、住民訴訟（橋本駅南口地区における土地区画整理事業に関する実施協定締結差し止め請求事件）

3月11日の第1回口頭弁論の後、第2回5月27日、第3回7月8日、第4回9月18日、第5回11月11日の口頭弁論を経て結審となり、去る2月5日却下の判決が言い渡されました。

<請求内容>

- ① UR（都市再生機構）と相模原市の実施協定は、地方自治法242条2の第1項1号に基づき違法である。
- ② URへの補助金1億5375万2426円の支出に対し、違法であるから損害賠償等請求する。

<判決内容>

- ① 住民訴訟は財務会計上の行為を対象としたものであり、実施協定の締結はそのことに該当しない。
- ② URへの補助金は実施協定に従い順当なもので監査請求の対象とはならず、したがって訴訟は不適當である。

以上わかりにくい裁判の経緯ですが、論点の財務会計行為に当たるかどうか争われ、却下されたということです。18人の原告での約1年の裁判でしたが、却下されました。現在、相模原市とURの実施協定はURの事業計画書が事業認可に向けて国交省に提出されようとしている状況です。

□URの事業計画書（案）の縦覧について

2月5日から18日まで上記計画書（案）がURによって市民に縦覧されました。今後10年の計画とされています。

●資金計画書には、URへの補助金が記載されています。

- ・国費——80億9434万円
- ・相模原市費——185億3092万円
- ・保留地処分金——26億9541万円
- ・総計293億2068万円とあります。

●市街地予想図には、13.7haの旧相原高校の跡地には、交通広場（いわゆるバスターミナル）13,251㎡をメインに、周囲に商業地域、公園予定はわずか1,049㎡です。

私たちがこれまで何度も要望してきた、「緑の憩いの広場、防災広場、子ども広場を」は全く描かれていません！！

URは「市の要望に基づいて計画する」といつてきました。アンケート調査に寄せられた、周辺地域の声も、市はかえりみないのでしょうか！

でもまだまだ決定ではありません。今後もあきらめずに、100年のクスノキをシンボルツリーとして残した、市民主体のまちづくりを求めていきましょう。

「百年のクスノキの保存を願う要望書」を市と県に再度提出しました。

昨年（2024年）12月に設置された市の「リニアまちづくり推進本部会議」に向けて、改めて要望書（次ページ掲載）を提出し、2月に回答が届きました。

橋本の緑と安心を守る会

代表 浅賀 きみ江 様

令和7年2月13日

百年のクスノキ保存を願う要望書について（回答）

相模原市長 本村 賢太郎

令和7年1月30日付のご要望に対し、次のとおりお答えいたします。

相模原市の誇るべき歴史的・自然文化遺産である、県立相原高等学校跡地の創立記念樹百年のクスノキを保存、保全してください

当該クスノキにつきましては、空洞率が6割を超えており、倒木の恐れがある事や、土地利用の観点から、現在の位置に残せない状況です。

橋本駅南口のまちづくりにおいては、市民の皆様のご意見を伺いながら、まちづくりの誘導方針となる「リニア駅周辺まちづくりガイドライン」を令和5年11月に策定したところです。当該ガイドラインの中では、地下駅であるリニア中央新幹線の駅舎や軌道の上に「緑と憩いの軸」を配置することにより、相原高校の豊かな自然環境の継承やゆとりを創出する空間の確保を行うこととしております。

橋本駅の求心力を高め、人や企業から選ばぬまゝとするため、魅力的な駅前空間を創出できるように積極的に取り組んでまいりますので、今後とも橋本駅周辺整備推進事業に対し、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

百年のクスノキ保存を願う要望書

【要望項目】

相模原市の誇るべき歴史的・自然文化遺産である、県立相原高等学校跡地の

創立記念樹百年のクスノキを保存・保全してください

創立記念樹クスノキの保存に関しては、再三にわたり要望書を提出してきましたが、昨年12月にリニアまちづくり推進本部会議が設置されたことを受け、改めて要望書を提出いたします。

【要望理由】

- 1、創立記念樹クスノキの管理者である神奈川県はクスノキを不要財産として伐採する方針で予算計上し、その根拠に相模原市が保全する必要はないとしていることを確認したとしています。

相模原市は、この件についてアンケートや住民投票などで必要の有無についての市民の意見を問うたことが一度もなく、市民無視の一方的な決定です。当会は2023年に、周辺住民約2000戸へのアンケート調査を行い、およそ一割以上に及ぶ220人の方からぜひあの場所を公園にして残してほしいとの声をいただいている代弁者です。

- 2、県立相原高校は、2023年に創立百周年を迎え、盛大に記念行事が開催されました。同校がこの100年の間に送り出した卒業生は、18000人以上にも及び相模原市内、神奈川県内にとどまらず全国各地で活躍中、各界に多くの有名人も輩出しています。相原高校は教育の礎として多大な貢献をした学校です。

大正時代に当時の相原村で、総勢180人を超える人々が建設のための用地や資金を寄付し、村をあげて農蚕学校の誘致に奔走されたと、相模原市史にも記されています。校舎が移転した現在、その発祥の地に残る創立記念樹のクスノキを、貴重な歴史を伝える遺産として保存・保全するのは、市としての責務なのではないでしょうか。

- 3、市が橋本駅周辺開発に描いている図面を見るとクスノキは京王線のホーム横に位置しており、知恵を絞れば駅前整備事業でクスノキを伐採しなくても現状のまま、そのまま残した形で再開発できると考えます。新しい木を植えるより、長い歴史を持つ樹木を大切に生かしてこそ緑と共生したまちづくりと言えるのではないのでしょうか。

また、市長はあのクスノキには空洞があり倒木のおそれがあるから伐る、と決めつけておられますが、空洞ができるのはクスノキの特徴、養生次第で千年も2千年も生きる樹木です。熱海の来宮神社には2000年を超す大楠木が、根元に抱えた大きなほこらに神社が祀られ、多くの参拝者が訪れています。

- 4、相模原市は、2021（令和3）年『さがみはらみんなのシビックプライド条例』を制定し、市内外に本市の魅力、誇りの発信に市をあげて努めています。県立相原高校創立記念樹百年のクスノキは、相模原市の礎を築いた誇るべき歴史的・文化遺産、まさにシビックプライドそのものです。

『さがみはらみんなのシビックプライド条例』に鑑み、クスノキを保存・保全し、市内外にその存在を発信するとともに、次世代に継承してください。

（なお、お手数ですが、2月末までに文書での回答をお願いいたします。）

これより以前、樹勢が弱り倒木の恐れがあるからと頑なに伐採方針を変えず、その予算まで計上している県知事宛に「百年のクスノキ保存のための樹木診断の場を設けることの要望」を提出していたのに対して、昨年12月になってようやく回答が届きました。

回答には、

『相原高校の移転に不要な財産として整理している。相模原市が進める、橋本駅周辺のまちづくりの進捗に合わせ、適切な時期に伐採する方針であるため、樹木診断を行う必要がないと認識している』とあります。

このように市も県も市民の声を無視し、開発優先、伐採ありきの姿勢を全く変えようとしません。由緒ある相原高校創立記念樹一本残せない、残そうとしない行政って何なのでしょう。

ドーンと一本、クスノキの大木が、五百年・千年先も駅前に立っていたら最高のシンボルになるに違いありません。渋谷のハチ公口には数本の樹々があって、絶好の待ち合わせ場所になっています。樹々あってこそその日影があるからです。

裁判は終結しましたが、私達は言い続けます。

クスノキを残して、市民の憩いの広場を、橋本の駅前に！！と。

橋本駅南口での駅前でスタンディングを再開します。

ご参加、ご協力をお待ちしています。あらためて署名のご協力をお願い致します

4月17日（木） 14：30から16：00

編集後記

ワシントンの桜は誰が送ったの？

1912年、当時の東京市長・尾崎行雄が日米和平親善のために送った3020本の桜の木は、ポトマック河畔に今、まさに満開と聞きます。

憲政の父といわれる罌堂（尾崎行雄）は旧津久井郡又野村、現相模原市緑区又野に生まれました。第2次世界大戦時も非戦を貫いたといわれ、今も又野に罌堂記念館があり街の誇りとされています。さて現代の我が街の市長は、歴史を刻んだ100年のクスノキを伐るのでしょうか？
（浅賀きみ江）

